

大沼池[大蛇祭り]

コバルトブルーの色で有名な大沼池（おおぬまいけ）の水は、付近の赤石山（あかいしやま）から洗い流されてきた硫酸銅によって変色したものである。池のほとりに見える赤い鳥居は、この地域で守り神として扱われている大蛇という竜を祀った大蛇神社の鳥居だ。

民話に次のような一説がある。毎年春になるといつも、大蛇は男の姿になって山に花見をしに行っていた。ある日、大蛇は木の下にひとりで座っていた黒姫（くろひめ）という名の女と出会い、2人はすぐ恋に落ちた。大蛇は黒姫の父に彼女と結婚させてほしいと願い出たが、父はそれを断る。結局は娘の結婚を賭けて大蛇と競争することにした父だったが、草地の中に隠していた刀で大蛇の体をずたずたに裂いてしまった。怒りに震えた大蛇が大嵐を呼び寄せて一帯を水で押し流すと、黒姫は自分の家が流されてしまったのを見てひどく悲しみ、池に身を投げ溺れてしまう。そして、後悔の念に駆られた大蛇は嵐を払い大沼池に戻っていった、という内容である。

毎年8月になると、地元の人々は大蛇祭りでこの物語を思い起こしている。祭り初日には、色鮮やかな竜の人形を持ちながら、人々が小さな船で池を渡る。また、午後には神輿行列が練り歩き、夕方には花火が打ち上げられる。